

現代的縄文食風景



自然がはぐくむ力をいただき、分かち合い、命をつなぐ〈食〉。太古の縄文から続く営みのあり方を、食べて感じるJOMONフードスケープ「現代的縄文食風景」。人が集まる暮らしの営みを面影に残す、玉川荒神の古民家を会場に、縄文のうつわに盛った「八ヶ岳豊穡プレート」を味わう4日間の〔現代的縄文食が味わえる荒神の古民家〕と、交流の場として期間中会場を公開する〔社交場になる荒神の古民家〕を実施しました。

現代的縄文食が味わえる
荒神の古民家

10月8日(日)、9日(月・祝)、15日(日)、22日(日)
茅野市玉川荒神の古民家

社交場になる
荒神の古民家

10月8日(日)～22日(日)
茅野市玉川荒神の古民家



アートによる食の問いかけ

大きな軒下、床下の室、縁側で憩うふだんの暮らしが感じられる、人の寄り合う場所「玉川荒神の古民家」を会場に、現代的な縄文の「食風景」をつくりだす企画。フードコーディネートの藤田亜紀子さん、岡部美香さんが、縄文文化を調べたうえで、現代からの提案としてメニューを考案。トラットリア チカフク(近藤重)さんからの鹿肉の提供をはじめ、地元生産者の農産物や地ものを素材に、現代的縄文食を創作しました。また、デザイン監修の富岡史棋さんと、アートによる食の問いかけを、イメージデザインとして打ち出しました。



現代的縄文食

太古の縄文から続いてきた食の知恵や技と、現在の食材や調理法とを合わせた「現代的縄文食」を4日間、各日15名限定で提供しました。地ものを中心に、採れたての食材や保存食をつかい、縄文の創造性に想いを馳せた「縄文のうつわ」に盛った収穫祭の料理「八ヶ岳豊穡プレート」。藤田さんの料理を、古民家の家主や近所の皆さん〈ママーズ〉のもてなしで楽しんでいただきました。



社交場

10月8日～22日の期間中、人の寄り合う「社交場」として古民家を公開し、誰でも自由にお立ち寄りいただきました。「縄文のうつわ」も展示し、おもてなしの〈ママーズ〉の皆さんが手製のお茶請けを用意して、一緒にお話を楽しむ様子がうかがえました。また、茅野の特産・寒天の魅力を広める活動をしているちの寒天プロジェクトによる交流会「天屋日和」も古民家で開かれました。室内には「みんなでつくる寄せ書き日記」を置き、来場した皆さんの声を日記として描いてもらい、共有しました。

